

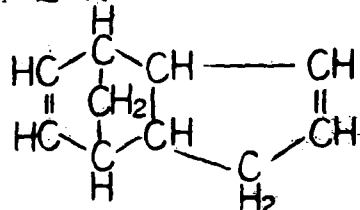
ジシクロペンタジエンの分解度試験成績報告書

1 試験期間 昭和52年12月1日～昭和53年1月28日

2 試料名 ジシクロペンタジエン(試料底X-8.9)

構造式

分子式 $C_{10}H_{12}$



性状 融点(℃) 33.6, 沸点(℃) 170.0

比重 0.977(35℃/4℃), 溶解性 水に不溶
(提示資料による)

3 試験方法及び条件

環保薬第 5号

薬 発第615号

49基局第392号

試験方法による化学物質の分解度試験による

試料濃度 100 ppm, 汚泥濃度 30 ppm, 試験期間 2 週間

3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機(酸素消費量測定機使用)

3.2 酸素消費量測定

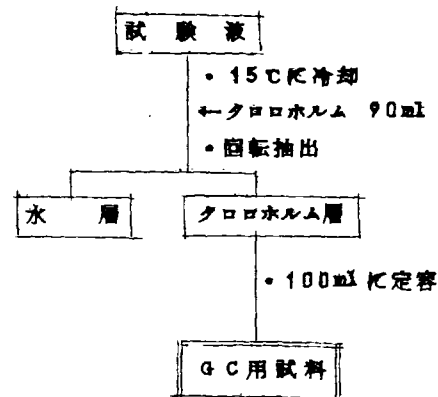
3.1の記録による

3.3 生分解試験後の直接定量法

(a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ(検出器 FID)

(b) 分析試料の前処理



(c) 分析条件

ガスクロマトグラフ(GC)検出器 FID

キャリアガス N_2

充てん剤 10%PEG20M/クロモソルPW

ガラスカラム 2mmφ×0.6m

カラム温度 70℃

4. 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	0 ※	1	—
GCによる結果	0	2	1

※ 図汚泥+試料は図-1では酸素消費があるように見えるがGCによる直接定量の結果2.1mg残留していて残留率97%である(表-1参照)。

故に⑤汚泥+試料の酸素吸収は機械のもれによるみかけの酸素吸収曲線と思われるので、4の計算には⑤汚泥+試料のみ採用した。

5. 備 考

① 試料は液体なのでマイクロシリンジにて30 μ l (30 \times 0.977=29.3mg) づつ各培養ビン中へ添加した。

② クーロメーターへのセット状況

	状 況
仕 込 時	水面に粒状で浮いていた
終 了 時	粒状で浮かんでいるのはみられなかったが 試料特有の刺激臭があつた

以 上